
編集後記：前回編集後記を担当したのはもう7年前になります。その間、地方勤務で編集委員を離れていた時期もありましたが、2年前から復帰し、現在「今月のひまわり画像」を担当しております。衛星画像というのは、見れば見るほど、特性を知れば知るほど、いろいろな気象現象を読み取ることが出来て、著者グループの方々からはいつも勉強させてもらって感謝しています。

ところで、7年前の編集後記に登場させた、気象予報士志望(?)の当時5歳の長男が、早いものでこの春から中学生になります。わたしも歳を取る訳です。東京近郊というところは、みなさんご存知のように私立中学への進学が特にめずらしいことではなく、長男もなんだかんだと中学受験なる行事に巻き込まれることになりました。

これをきっかけに私立の中高一貫校における地学教育に興味湧き、いろいろな学校の理科のカリキュラムを調べてみました。中学校課程の理科には必修で地学分野が含まれているため、原則的にはすべての学校で地学を学習する環境があるようですが、理科の各分野が選択制となる高校課程ではちょっと様子が異なっていました。地学をしっかり学べる学校がとても少ないのです。地学を選択できる学校数はそれなりにある

ものの、文系向けのセンター試験対策講座がほとんどで、理系向けの地学講座を開講している学校は調べた限り数えるほどしか有りません。少々話がそれますが、進学校と呼ばれる私立中高一貫校には、大学受験対策面で大きく二つに分けられるようです。一つは受験対策をみっちりやる学校。もう一つは、特に受験対策を明示的には行わず、勉強は自主性にまかせ、どちらかという「勉強のやり方」を教えるような学校。理系向け地学を選択できる学校は後者のタイプに多いようです。大学入試で地学を選択できるところが少ないため仕方の無いことなのかもしれませんが、これでは理系生徒が気象に興味を持つきっかけを減らすことになりかねず、ちょっと寂しい気がしますね。

高校課程の地学専任教員が不在の学校も多い中、東大合格者数連続日本一を誇る名門K学園は、地学専任教員が3人もおり、理系向け地学については受講希望生徒が1人でもいれば開講するとのことでした。名門校たるゆえんがそういうところにあるのでしょうか。

長男が進学することになった中学校は、自主性を重んじる校風で、理系向け地学講座も開講されているようです。さて、長男はどのような進路を歩んでくれるのでしょうか。楽しみます。

(金田昌樹)